

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

クラウドソーシングによる新しい働き方改革（シェアリングエコノミー天塩モデル構築プロジェクト）

2 取組期間

平成 28 年度から取組み開始（継続中）

3 取組概要

・ ICT を活用し、クラウドソーシングによる、場所・年齢・時間にとらわれない新しい働き方により、介護や育児により働きたくても働けない主婦や過疎地で仕事が少ない田舎町でも首都圏の仕事を受注できる仕組みづくりとして、プラットフォームを活用して所得の向上を目指す。また、参加者同士が協力しながら仕事を進めるなど自らの意思で自走できるチーム作りの構築。

- ①人材の掘り起こし
- ②セミナーの実施による地域住民ワーカーの育成
- ③自主勉強会や仕事のコーディネート等を行う地域ディレクターの育成
- ④個人個人ではなく、チームとして自走できる体制作り

4 背景・目的

・天塩町は日本最北の都市の稚内市から南に 70 km のところにある人口約 3,200 人の町で、大都市から地理的に遠く、（札幌市まで 250 km、旭川市まで 200 km）町内での雇用も限られており、育児や介護に時間を取られている主婦は働く意欲があっても働きに行けない状況であったことからクラウドソーシングに着目。ICT を活用し、クラウドソーシングによる新しい働き方をランサーズ株式会社と提携し、まずは、育児中の母や子育てがひと段落した方の隙間時間を有効活用し、都市部の仕事を地方でもでき、かつ時間や場所などに縛られず働くことで、女性の活躍と所得の向上を目指す。

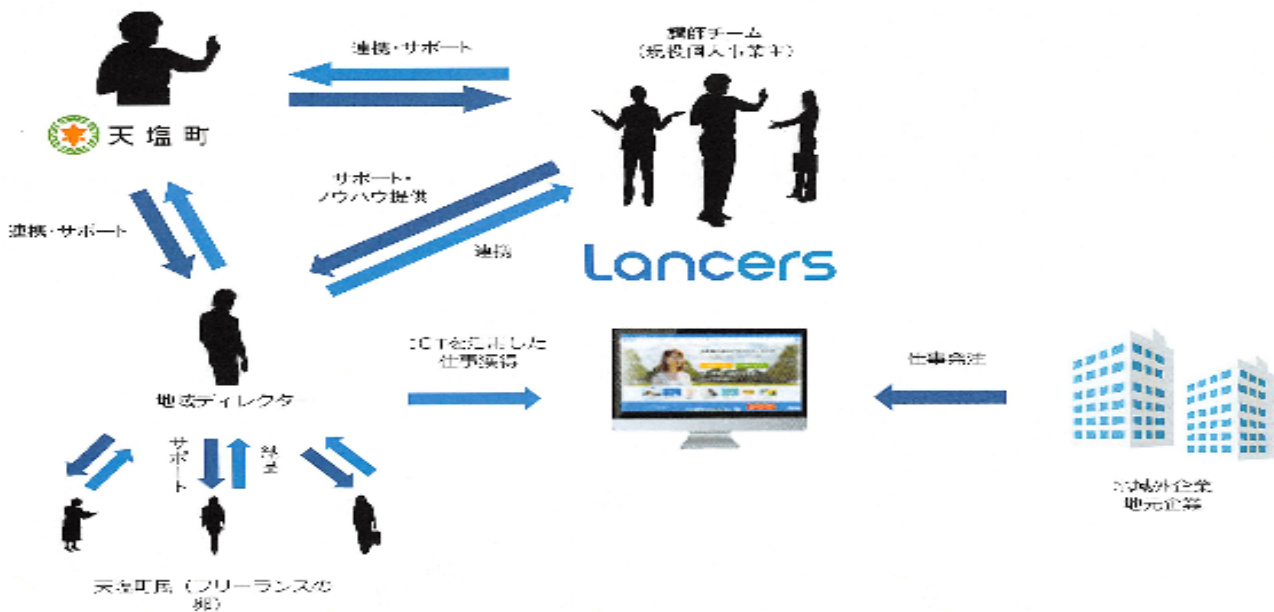
5 取組の具体的内容

クラウドソーシングによる、自分のライフスタイルに合わせて、時間や場所にとらわれない働き方の推進のため、ランサーズ株式会社と提携し、以下のような行程で事業を実施。

(1) 広報や回覧、新聞折り込み等で参加者を募集し、セミナーに対しての説明会も行い参加者を募集。また、地域ディレクターを道内のフリーランスのライターかつ本事業の参加者を中心にチームとしての受注体制の構築に意欲のある人を募集・面接し、選定。

(2) 全4回のセミナーを実施し、自分にとって理想的な働き方の明文化、ライティングスキル、クラウドソーシングの3つのスキルを座学で学ぶと同時に、セミナー期間中に実際に報酬を得ながら仕事内容、受注・契約方法などの実践的な知識・経験を習得。

(3) セミナー終了後は地域ディレクターが参加者に仕事をコーディネートする仕組みを作り、チームとして自走を開始。



6 特徴 (独自性・新規性・工夫した点)

・セミナーはランサーズの担当者や実際のフリーランスのライターが講師として講義し、クラウドソーシングに対する不安や疑問を払しょくし、セミナーを通じてライターとしてのスキルアップにより、ライター経験がない主婦でも取り組めるよう、土台作りを行った。

・月1~2回程度モヤ会と称した集まりを開催し、セミナー参加者と地域ディレクター、講師とスカイプで繋ぎ、課題解決の相談やライティングの悩みなどを話し合う機会を設け、チームとしての結束や仲間意識、仕事に対する不安等を解決し、持続性のある事業展開となるような仕組みを作った。

・セミナー終了後に個人がいきなりクラウドソーシングを活用し働くのは難しいため、地域ディレクターが参加者の特徴や得意分野等を把握し、仕事を受注・振り分ける仕組み作りを構築した。それにより時間の余裕がない主婦たちが仕事を探す手間もなく、自分のライフワークに合わせて持続的に仕事が出来ている。

7 取組の効果・費用

- ・H28年度セミナー参加者11名
(平成29年1月～平成29年3月) 報酬合計310,214円
(平成29年4月～平成30年3月) 報酬合計2,073,222円
- ・H29年度セミナー参加者10名
(平成29年9月～平成30年3月) 報酬合計118,427円
事業による報酬合計2,501,863円

2ヶ年事業を行っているが、セミナー終了から実質1年弱でライター経験のない主婦でも稼ぐことが出来ている。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・全国的にも事例が少なく、クラウドソーシングやシェアリングエコノミーなどの横文字に地方の人達には抵抗があり、理解してもらい参加者を集めることに苦慮した。
- ・地方では人材に限りがある。(若い世代でもパソコンが使える人が少ない)
- ・見えない相手との仕事のやりとりに抵抗があり、不安を取り除くことに苦慮した。
- ・子育て主婦がメインなため、仕事の出来る量が決まっており、大幅な所得の増加は難しい。
- ・地域ディレクターを町民の中から育成したかったが、子育て主婦がメインなため、育成するのが難しく、札幌在住のフリーランスのライターを地域ディレクターにした。そのため、なかなか天塩町へ来訪することが難しく、直接コミュニケーションが出来ない距離だったが、スカイプ等を利用し、コミュニケーションや意志疎通を図ることができた。

9 今後の予定・構想

- ・H30年度にはセミナー参加者を一つのチームとして完成させ、地域ディレクターを中心に地方にしながら都市部の仕事を受注しながら所得の向上を目指し、自治体の力がなくても自分たちで自走できる形を確立する。また、本事業に興味を持った町民や近隣住民を自治体が育成するのではなく、チームで育成(仲間作り)し、規模の拡大をしていき、天塩町を中心にクラウドソーシングによる新しい働き方のモデルケースとして活動して行く。

10 他団体へのアドバイス

- ・人口規模が小さい自治体でも様々な人が知識や経験を所有しており、逆に都市部では考えられない発想や経験を持っているので、パソコンさえ使用出来れば稼ぐことが出来る。
- ・転勤族も多い点から、もともとクラウドソーシングに興味がある(利用したことがある)方も潜在的にいることがわかった。
- ・最初は興味を持つ人が少なく、敬遠しがちだが、子育て主婦のコミュニティーを利用し、集団で参加してもらい、その後口コミ等による横展開を期待する。
- ・地域ディレクターのスキルやモチベーションで事業の成功が決まると言っても過言ではないため、ライターとしてのスキルはもちろんだが、コミュニケーション能力や人望の厚さなど人柄も加味し選定する(スカイプ等による面接も重要)。
- ・一定のパソコンスキルが必要であり、このような事業をする前にパソコン教室などある程度のスキルの向上をしてからのほうがより効果が出やすいと思われる。

1 1 取組について記載したホームページ

LOHAI（セミナー参加者が実際書いた記事を掲載）

<https://lohaj.jp/teshio/>

天塩町ホームページ（広報誌 2017 年 8 月号）

http://www.teshotown.hokkaido.jp/?page_id=16561#anchor_in_a_page_1

北海道内唯一のシェアリングシティに認定

<http://www.sharing-economy.jp/ja/news/171108/>